

島間の風

平成29年9月1日

南種子町立島間小学校

第 1 2 号



学校はみんなを待っていました！

校長 永留 良隆

今年の夏休みは、なぜか例年以上に暑く感じました。また、42日の夏休みも、今となつてはあつという間に過ぎ去った気がします。歳をとったせいでしょうか？ 猛暑の中、次々に実をつけるわんぱく農園の野菜。色鮮やかに咲き乱れる学校園・学級園のマリーゴールド・百日草・マツバボタン等の花々。ついでに(?)刈つても刈つても、あつという間に伸びてしまう草。どうやら植物にはお盆休みもなかったようです。

さて、今日からいよいよ2学期のスタート。学校に子供たちのにぎやかな声が戻ってきました。夏休みに楽しいことがあったこと、満足できる夏休みだったこと、一生懸命に頑張った夏休みだったことが、登校する子供たちのキラキラ輝く瞳に表れていました。日焼けした顔が多かったのも印象的でした。

この2学期は、9月から12月までの4か月間、残暑から秋冷へ、そして初冬、厳寒の候へと季節の変化が最も厳しい時で、三つの季節の移り変わりがこの2学期に集約されています。また、勉学の秋、読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋といわれるように、様々な活動に最適の季節です。教育活動もいよいよ活発に充実する時であり、一つ一つの行事の意義を十分理解させ、一人一人の目標達成に向けて声掛け・目配りをしていきたいと思っています。御家庭でも、特にこの2週間程度は生活リズムに十分留意していただき、充実した2学期のスタートが切れるように御協力ください。

始業式～児童代表の言葉から～

始業式で偶数学年の代表児童が、主に「夏休みの思い出と2学期の目標」を述べてくれました。2年生の岩さきそうすけ君の話を記載します。(南日本新聞「わかい目」に掲載)



ぼくは夏休みに、くまもとから来たいとこのかいとにいちゃんとたくさんあそびました。かいとにいちゃんは、7月のおわりにたねがしまにきました。ぼくはこの時をずっと待っていました。なぜなら、いつも一人だからあそぶ人がいなくてさびしかったからです。

かいとにいちゃんとプールに行つてウォーターライダーをしたり、およぎのしょうぶをしたりしました。ほかには、ロケットまつりやてっぽうまつりに行つて、ヨーヨーすくいや出店でお買い物もしました。かいとにいちゃんとはなかなかよしけど、たくさんけんかもしました。あそんでいる時にじゃまされて、はじめはくやしかったです。ぼくはくやしかったけれど「ごめんね。」と、おたがいにすなおにあやまることができました。いつも一人であそぶことが多いので、夏休

みにかいとにいちゃんがきてくれて、とてもうれしかったです。今日から2がっきがはじまりました。ぼくは、がんばりたいことが三つあります。まずは、さん数のかけ算をぜんぶ覚えることです。まい日、いえでもれんしゅうをして早くおぼえたいです。つぎに、文しょうを書くことができるようになります。じぶんでかんがえたことをしょうずに書いて、じゅぎょうでたくさんはっぴょうしたいです。その時に字をていねいに書きたいと思っています。

さいごになわとびです。こうさとびやあやどび、にじゅうとびがもっとできるように、休み時間にれんしゅうをしていきたいと思っています。もくひょうがたっせいできるように、がんばりたいと思っています。

※ その他に、4年：雨宮いろはさん 6年：河北翔君が堂々と発表してくれました。3人とも用意周到な事前準備が伺える発表でした。

スゴイ！県民週間標語コンクールで県優秀賞！

※ 最優秀賞につぐ2番目の賞です！

1年：浮田夢生君の作品

みんなのえがおがきょうのばわあだ けんみんしゅうかん

県図画作品コンクール町審査結果

先の学校便り10号で審査結果はお知らせしましたが、2名の児童が記載されていませんでした。追加報告いたします。少し遅くなりましたが、おめでとうございました。

入選→1年 河北隆 1年 船川寛太



島間小ホームページのお知らせ

島間小のホームページを御覧になったことがあるでしょうか。次々に更新されるブログは、最新の子供たちや学校の様子を写真入りでコンパクトにまとめています。配信しているのは誰か？見てのお楽しみです。(7月20日配信の「一学期終業式！夏休み♪」を御覧ください。) URLは、<http://shimama.sakura.ne.jp/>です。

校長の独り言・・・8月19日(土)の夜、中種子へ向かう途中、西之表方面で花火が打ち上がるのを見ました。今年初めて見る花火。車を止めて、しばらく見入ってしまいました。遠くから見る音のない花火を「遠火」と呼びます。近くでドカーンという大音響の中、大輪の花火もいいですが、その夜は色だけの鮮やかさをじっくり味わいました。打ち上げられてから花開くまでの



息を飲むような瞬間。次の花火を待つまでに訪れる静寂の時間。遠くで音もなく打ち上がる花火に心を奪われました。切なく打ち上がる花火を見上げながら、今年の夏が終わった感がしました。